

2026 年度 外部評価報告書

2026 年 10 月

沖縄キリスト教学院大学

沖縄キリスト教短期大学

目 次

- 1. 外部評価の実施について P 1
- 2. 外部評価委員会出席者名簿 P 2
- 3. 外部評価委員会議事録 P 3
- 4. 自己点検・評価・改善委員会議事録（一部抜粋） . . P 9

Ⅰ．外部評価の実施について

学校法人沖縄キリスト教学院は、2025 年 12 月に第 6 次中期計画（計画期間：2026～2029 年度）を策定した。「第 6 次中期計画」では、ビジョン実現のための達成目標（Goal）、達成目標に到達するための戦略を策定した。併せて策定した「アクションプラン」において、戦略を実現するため施策を立案した。また、中期計画の達成状況を可視化するため、重点項目において KGI（重要目標達成指標）及び KPI（重要業績評価指標）を設定し、毎年度進捗状況を点検することとしている。

沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学（以下、「本学」という）では、この取り組みを実質化し、そして社会のニーズと照らし合わせながら都度反映できるよう、中期計画の内容及び取組状況を外部評価委員会へ諮ることとしている。ついては、沖縄キリスト教学院外部評価委員会規程に則り、2026 年度外部評価委員会を 2026 年 8 月 31 日に実施し、学外の学識者や地域から選出した外部評価委員と学内関係者において活発な意見交換を行った。

ただし、2026 年度は、第 6 次中期計画の初年度にあたるため、計画内容についてご意見を頂き、次年度以降、取組状況や進捗状況について確認していく予定となっている。

報告書としては、外部評価委員会議事録と、外部評価結果を学内に報告し取組に反映するための自己点検・評価・改善委員会議事録をもって取りまとめることとする。

2. 外部評価委員会出席者名簿

(1) 外部評価委員

分 野	氏 名	所 属 ・ 役 職
地域	宇地原 光	沖縄県立西原高等学校 校長
学識	下地 芳郎	一般社団法人 沖縄観光 DX 推進機構 理事長
地域	入田里 幸治	西原町役場 総務部企画財政課主幹

(2) 沖縄キリスト教学院大学・沖縄教短期キリスト大学役員・教職員

役 職	氏 名	所 属
理事長・学長	金 永秀	学校法人沖縄キリスト教学院 沖縄キリスト教学院大学 沖縄キリスト教短期大学
人文学部長	城間 仙子	沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 教授
教学支援部長 IR センター長	上原 明子	沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 教授
学生支援部長	新垣 友子	沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 教授
観光文化学科 学科長	平野 典男	沖縄キリスト教学院大学 人文学部 観光文化学科 教授
地域こども保育学科 学科長	平中 尚子	沖縄キリスト教短期大学 地域こども保育学科 准教授
事務局長 (兼 学習支援課長)	與那原 馨	学校法人沖縄キリスト教学院
企画推進課長	真栄田 美奈	学校法人沖縄キリスト教学院

3. 外部評価委員会議事録

2026 年度沖縄キリスト教学院外部評価委員会 議事録

日 時：2026 年 8 月 31 日（月）13：30～15：30

場 所：SHALOM 会館 1-2 教室

外部評価委員：宇地原光（沖縄県立西原高等学校 校長）、
下地芳郎（一般社団法人沖縄観光 DX 推進機構 理事長）、
入田里幸治（西原町役場総務部企画財政課主幹）

学内出席者：金永秀（理事長・学長）、城間仙子（人文学部長）、上原明子（教学支援部長兼 IR センター長）、新垣友子（学生支援部長）、平野典男（観光文化学科長）、平中尚子（地域こども保育学科長）、與那原馨（事務局長）、真栄田美奈（企画推進課長）

陪 席：原田春美（教務課長）、金城繁史（入試課長代行）、仲間末美（総務課長）、中田竜次（学生課長）、内間貴士（企画推進課書記）、大塚千穂（企画推進課書記）

配 布 資 料：沖縄キリスト教学院第 6 次中期計画（2026 年度～2029 年度）

第 6 次中期計画アクションプラン

2025 年度事業報告書（抜粋）

真栄田企画推進課長の進行により次第に沿って進め、宇地原光委員を委員長として全会一致で選出後は、以下の議題について宇地原委員長により進行した。

議題

1. 第 6 次中期計画及び第 6 次中期計画アクションプランについて

第 6 次中期計画の骨子について金学長より説明し、第 6 次中期計画アクションプランについて真栄田企画推進課長より説明後、以下の内容の意見交換がなされた。

【説明要旨】

- **第 6 次中期計画策定の必要性と背景**：2022 年度より第 5 次中長期計画が稼働中であったが、2024 年度に大学人文学部「観光文化学科」の新設、および「短期大学英語科」の募集停止、保育科の「地域こども保育学科」への名称変更など、大規模な組織改編を行なったことに伴い、新たな教育組織を前提とした対応や計画全体の整合性を取る必要が生じた。そのため、第 5 次中長期計画は 2025 年度をもって総括・検証を完了し、2022 年～2025 年度の取り組み状況を自己点検・評価した。そこから導き出された学院の発展に向けた課題や方向性を整理し、新たに「第 6 次中期計画」を策定した。
- **第 6 次中期計画のビジョンと構造**：「質の高い教育を通して、地域社会に貢献する人材、国際理解を深め平和に貢献する人材を育成する大学となる。また、その基盤となる財政の健全化を目指す。」をビジョンに掲げた。本学院の根本である「建学の精神」に基づき、平和を希求し、沖縄と世界の「隣人に奉仕する人材」の育成を目指す。ビジョンを支える「教育の質」「地域貢献」「国際理解と平和」「財政健全化」の 4 つの柱に基づき、3 領域（領域Ⅰ：教育の

質、領域Ⅱ：学生支援、領域Ⅲ：経営基盤）を置き、Goal 1～19の達成目標を構造的に配置している。

- **達成目標・戦略・施策の連動構造：**アクションプランでは、Goalごとに「達成したい目標」、目標を達成するために何を行うかという「戦略」、その戦略をどう具体化して行うかという「施策」を連動させて策定した。これを毎年度の事業計画に落とし込み実行し、持続的に検証する。
- **KGI・KPIによる数値的進捗確認：**最終到達指標であるKGI（重要目標達成指標）と、そのプロセス指標であるKPI（重要業績評価指標）を設定した。KPIを達成することで、結果としてKGIの達成につながる構造である。取り組み状況を数値化（可視化）しPDCAサイクルを回している。2026年度の進捗は「2026年度事業報告」にて、KPI・KGIの実数値による達成率を算出のうえ、改めて外部評価委員会へ報告する方針である。

【意見交換】

外部評価委員と大学側出席者の間で、Goal 1 [教育の質保証・質向上]、Goal 2 [学修成果の可視化・向上]、Goal 18 [入学者選抜の適正化]を中心とする全学の取組計画内容について、意見交換が行われた。主な発言内容は以下の通りである。

(1) 修学ポートフォリオの活用とアクションプラン上のKPI設定

【委員の質問・提言】

- ・ Goal 2「学修成果の可視化・向上を図り、学生が自己の成長を実感できるようにする」のアクションプラン2-(1)-①「修学ポートフォリオの活用」について、前年度の外部評価委員会において、修学ポートフォリオの有効性や記入率について指摘があり、学生の自己点検・成長を促す上で重要なシステムだと感じている。また、KPIの目標数値を定めなかった理由を伺いたい。

【本学の回答】

- ・ 2-(1)-①KPI設定（例えばポートフォリオ記入率何%達成など）は検討したが、今回は現実的な見通しや実質的な効果の検証等を優先し重点項目に設定した（Goal 1-(4)「出口における質保証を促進する」におけるKPIの目標設定：修学ポートフォリオ（達成度スコア）における全項目の平均について、卒業時100%を達成）。
- ・ 修学ポートフォリオの有効活用、および入力率の低下を防止することは重大な課題と捉えている。現在、記入率の向上および活用の習慣化に向け、全学で取り組んでいる。[教学支援部長]

(2) 平和ガイド育成プロジェクトと地域連携

【委員の質問・提言】

- ・ 5-(1)-①〈人文学部〉「多言語による「平和ガイド」育成プロジェクトの検討」について、どのようなプロジェクトなのか。西原町でも毎年「平和バスツアー」を行い、親子連れを含め多くの町民に平和への高い関心を持っていただく成果を得ている。地域の平和事業との連携についても期待している。

【本学の回答】

- ・ 平和ガイド育成プロジェクトはこれからの取り組みになるが、英語コミュニケーション学科では

卒業研究における地域課題解決プロジェクトの中で、平和や多文化共生に関連した活動を一部立ち上げる可能性がある。観光文化学科では、観光ガイドと英語教育というゼミを立ち上げ、実際のガイド現場における実践等の計画を進めているほか、来年の学院創立 70 周年に向け、学生が考える平和学習プログラムや、企業と協力した修学旅行生向けツアー企画などの産学連携の取り組みについて、学内協議中である。[人文学部長／観光文化学科長]

(3) オフィスアワー制度の周知・運用と DX 推進

【委員の質問・提言】

- ・ 領域Ⅱ. 学生支援の 6-(3)「オフィスアワー制度の周知に努め、学生利用を促進し適切に運用する」に関して、「オンライン相談等の柔軟な対応」はどのように機能しているのか。個別相談対応を進めるなかで、具体的なツール（システム）の活用状況はどうか。教員の負担も懸念されるが、DX の推進についても伺いたい。

【本学の回答】

- ・ オフィスアワー制度については、4 月の学期当初のガイダンスや各種資料等で各教員が設定した日時を周知している。しかしながら、現状としては、定められたオフィスアワーの時間帯にアポイントを取る相談以外に、授業後その場での質問や、研究室を訪れ気軽に相談する学生が多く、小規模大学ならではの特徴を活かし、身近な教員にいつでも相談できる環境が機能している。[学生支援部長]
- ・ DX としては、本学では全学共通のプラットフォームとして Microsoft Teams を採用しており、全学生に一人一アカウントを付与している。これにより、教員と学生間のチャットを通じた密なやり取りが日常化している。一方で、プライベートと指導時間の境界の曖昧化（学生が夜中にチャットで教員に相談を送る等）といった課題も出ており、今後は改善していく計画である。また、面談記録をシステム（修学ポートフォリオ）に記録・共有し、教員間で指導を連動・可視化させ DX 体制を整えている。[人文学部長]

【委員の評価】

- ・ ツール（Teams チャット）を活用して学生と教員がいつでも連絡を取れる仕組みがあることは良い点である。多忙な教員のアポイント調整の負担を軽減し、学生に迅速に対応する上で有効と思われる。チャットツール利用の課題もあるが、DX を進めていく意義がある。

(4) 経済的理由による中途退学の防止対策

【委員の質問】

- ・ 領域Ⅱ. 学生支援の Goal 6-(5)「中途退学率の減少に向け取り組む」において、経済的な理由による中途退学の防止体制の整備という内容が含まれている。社会的に貧困問題が取り上げられ様々な支援が必要とされている中、経済的な事情で退学を余儀なくされる学生は増加しているのか。現状や大学としての学生支援の実態を伺いたい。

【本学の回答】

- ・ 家計状況が厳しい学生は予想以上に多く、高等教育の修学支援新制度の充実により、本学学生の約半数が同制度を活用している。また、オープンキャンパスや高校の進路指導を通じて「お金を理由に進学を諦めないで」という情報発信を積極的に行っている。入学後も、学内独自の奨学金と国の制度をきめ細かく組み合わせ、経済困窮により退学・休学を考える学生へ個別最適な資金設計を提案し、退学を防ぐ努力を続けている。[学生課長]

- ・ データ上も、4年制大学において中退学者に占める「経済的理由」の割合は、2021年度から2024年度にかけて継続して改善（減少）しており、学内の個別支援や奨学金周知の取り組みが功を奏していると評価している。[人文学部長]

【委員の意見・提案】

- ・ 領域Ⅱ. 学生支援の Goal 11「就職支援プログラムを強化する」に関して、「西原町雇用サポートセンター」では求人と求職をマッチングしている。大学のキャリア支援課が連携されてはどうか。

(5) 入学定員の充足、規模適正化の検討

【委員の質問・提言】

- ・ 領域Ⅲ. 経営基盤の Goal 17「入学定員充足に向けた取り組みを強化し、効果的な学生募集を行う」に関して、オンライン出願の導入は検討されているか。高校生がほぼ全員スマートフォンを保有している状況や、県外大学でのオンライン出願導入例もある。出願チャネルを増やすためのオンライン出願についてどう考えているか。

【本学の回答】

- ・ 入学定員の確保、志願者数の充足は重要課題である。本学は県内からの進学者が大半を占めているが、オンライン出願の導入についても検討していきたい。[教学支援部長]

【委員の質問】

- ・ Goal 19-(3)「規模の適正化の検討を行う」において、定員規模の適正の検証については、どのように考えているか。

【本学の回答】

- ・ 定員規模の適正について、入学定員および収容定員の充足状況は、私立大学等経常費補助金の配分にも関係する。毎年の志願者・入学者の推移を検証し、実態に合わせた定員の「適正規模」を管理・検証することが健全な経営を維持する上で不可欠な判断プロセスとなる。[事務局長]

【委員の提言】

- ・ 経営の視点では、量的な確保、及び少子化を背景とした定員規模そのものの検証・見通しは必要であろう。「観光文化学科」を設立し、新たな志願者を増やしてきたという外からの評価もあり、社会の今のニーズに即した検証・対応は必要である。

(6) 第5次計画の総括と、新学科設置（観光文化学科）の評価

【委員の質問】

- ・ 四年制大学と短期大学のビジョンは同じものか。また、前計画（第5次中長期計画）はどのように検証され、自己点検結果（大学の強み・弱み）をいかに第6次中期計画に反映させているのか。

【本学の回答】

- ・ 大学・短大ともに「建学の精神」を基本としているため、質の高い教育と地域・平和への貢献を目指す点に変わりなく、中期計画としての学院のビジョンは共通としている。[理事長・学長]
- ・ 第5次中長期計画の自己点検結果を総括した結果、教学アセスメントの実施や修学ポートフォリオの活用（学修成果の可視化）において、未実施項目の実質化や学生の活用等について「課題」

が抽出され、第6次中期計画に引き継がれた。

また、短期大学英語科の募集停止、および大学人文学部観光文化学科の新設（2024年4月）という大きな改組転換が生じ、全体の教育の整合性を取る必要があった。この組織改編を踏まえ、本学の強みとして「英語」「保育」「観光」の3本柱をたて、課題を計画的に解決するため、検証結果を基に第6次中期計画を構築し直した。国際交流や海外研修の必修化プログラムも本計画で強化している。[事務局長]

【委員の評価・提言】

- ・ 観光業界はコロナ禍で打撃を受け、多くの人が観光から離れる状況があった。その苦しい時期に、新しい観光文化学科を立ち上げるというメッセージをこの沖縄で打ち出したことは、観光業界全体にとって心強いエールであった。
- ・ 新学科スタートから3年目を迎え、まさに現在、沖縄の観光業界は「人手不足」と「質の高い観光人材の必要性」に直面している。これから大学が自信を持って送り出していく卒業生は、業界にとっても待望の存在になる。大学の観光人材育成は「大学の強み」として、自治体、観光業界、金融など幅広い分野において沖縄を支える人材育成に取り組んでいることを、国内外にアピールすることが大事である。

(7) KPI 設定の妥当性、大学の強みの発信について

【委員の提言】

- ・ 目標管理において、数値目標か状態目標のどちらかを明確に示すことが基本である。KPI・KGIの数値設定についてブランクは極力減らし、何らかの目標値を置くべきである。また、目標値を100%に設定することは、高い自信と施策が裏付けとして必要になる。施策の確実な実行、適切な管理について説明できるよう整理をしていく必要がある。
- ・ 経営面において、私立大学を取り巻く環境は極めて厳しい状況にある。その中で大学が生き残るための「キーワード（強み）」を外に明確に発信することが、学生募集や経営健全化に繋がる。県内だけではなく、県外・海外からも選ばれるための「大学の強み」や取り組み成果（AI推進への外部人材登用、実践教育の例等）をもっとアピールし広報戦略として据えることで、大学認知度を高めることができる。

【本学の回答】

- ・ 提言を真摯に受け止め、KPI・KGIの関連性、数値設定のあり方を再検討し、実効的な評価体制を整理していきたい。[教学支援部長]
- ・ 本学独自の強みとして、地域包括連携事業に注力してきた実績（2025年度包括連携協定締結：一般社団法人沖縄未来人材育成ラボ／KBC 学園専修学校インターナショナルリゾートカレッジ／株式会社ジャパンエンターテイメント／中城村及びエンパワー・サポート株式会社／株式会社MSC クルーズジャパン）について、対外的な広報（学生募集等）へ強力に結びつけ、大学認知度を高めるための広報に力をそそぐ。[観光文化学科長／企画推進課長]

(8) 学力多様化と、大学での個別学習支援

【委員の質問・提言】

- ・ Goal 1「三つのポリシーを踏まえた教育の質保証を行い、質向上に取り組む」、Goal 18「入学者選抜の適切性について検証・改善を行う」に関連して、基礎学力不足を抱えた生徒の入学後のミ

スマッチ問題がある。高校現場においても、生徒のプライドを尊重しつつ基礎学力をつけるための教育の「量」や支援（個人の理解度に合わせた学び直しなど）が必要だが、大学側も基礎学力不足の学生を引き受け、どう支援するかが課題と思われる。

【本学の回答】

- ・ 大学にとって、多様化する学生（基礎学力低下含む）への個別対応は課題である。本学は小規模大学だからこそ、学生一人ひとりに対する「個別指導（ケア）」が最大の強みになる。個別支援型の教育として、DX 技術も活用し推進していく。[教学支援部長]

(9) 分かりやすいポリシーの提示

【委員の質問・提言】

- ・ 大学のアドミッション・ポリシーや4年後の「ありたい姿」について、高校生が見て理解しやすい言葉に落とし込めているか。「こんな力がつく」「こういう人になれる」ということを学生募集において分かりやすく示すべきである。
- ・ 大学の強みは何か。大学のパンフレットや公式ウェブサイトには、3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）が記されているが、高校生または保護者が読んで伝わるものになっているか。対象別（高校生向け、保護者向け）に伝え方を工夫しても良いのではないか。

【本学の回答】

- ・ アドミッション・ポリシーや人材像を高校生に響く「分かりやすい言葉」に落とし込むことは、現在、学内で議論を重ねているところであり、重要な指摘である。「どのような人になれるか」「何ができるようになるか」を明確かつ平易に表現し、選抜プロセス（Goal 18「入学者選抜の適切性について検証・改善を行う」）や広報に反映させたい。[人文学部長]

2. その他

【本学より】

(追加) Goal 5「地域社会との連携強化」について

- ・ 西原町の呼びかけにより、夏休みこども食堂プロジェクトに学生が参加した。今後も学生と地域が連携した取り組みを進めていきたい。[地域こども保育学科長]

以 上

4. 自己点検・評価・改善委員会議事録（一部抜粋）

（1）沖縄キリスト教学院大学 自己点検・評価・改善委員会議事録

2026 年度 第 3 回
沖縄キリスト教学院大学 自己点検・評価・改善委員会
議 事 録

日 時： 2026 年 9 月 25 日（金）16：00～16：30※四短同時実施
場 所： 大会議室
構 成： 金 永 秀(学長)*委員長 城 間 仙 子(人文学部長)
許 伯 基(宗教部長代行) 上 原 明 子(教学支援部長)
新 垣 友 子(学生支援部長) 新 垣 誠(研究科長・図書館長)
小 嶺 千 尋(英コミ学科長) 平 野 典 男(観光文化学科長)
與那原 馨(事務局長) 真栄田 美 奈(企画推進課長)
陪 席： 内 間 貴 士(企画推進課書記)
委 任： 新 垣 誠(研究科長・図書館長)

【審議事項】

■ 1：外部評価実施報告

別紙①「2026 年度 沖縄キリスト教学院 外部評価委員会 議事録」

◆2026 年 8 月 31 日に「2026 年度外部評価委員会」が開催された。当該委員会では、「第 6 次中期計画及びアクションプラン」に基づき、取組計画内容について、外部評価委員及び学内出席者による意見交換が行われた。

今回の外部評価委員会の内容については、企画推進課長より別紙①「外部評価委員会議事録」に基づき報告があり、その内容及び公表について審議した結果、「問題なし」として全会一致で承認された。

なお、後日、当該議事録の内容（概略）を包括した「外部評価報告書（2026）」を作成し、本学公式ウェブサイトにて公表する予定である。また、外部評価委員（学外）からの提言及び意見については、教学マネジメント委員会や大学運営協議会、学内担当部署において内容を共有し、点検評価・改善向上、及び単年度の事業計画に反映させるよう確認された。

<外部評価委員の意見・質問等の一部抜粋報告>

外部評価委員からの提言及び意見については、今後の点検評価・改善・向上に反映していくこととする。

（外部評価委員からの意見・質問等）

- ・ 修学ポートフォリオの活用及びアクションプラン上の KPI 設定に係る意見・質問等
- ・ 学修成果の可視化・向上に係る意見・質問等
- ・ 教育の質保証・質向上に係る意見・質問等
- ・ 入学者選抜の適正化に係る意見・質問等

- ・ オフィスアワー制度に係る意見・質問等
- ・ DX 推進に係る意見・質問等
- ・ 中途退学防止対策に係る意見・質問等
- ・ 入学定員の充足に係る意見・質問等
- ・ KPI 設定の妥当性及び本学の強みの発信に係る意見・質問等
(詳細は別紙①参照)

(2) 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価・改善委員会議事録

2026 年度 第 3 回

沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価・改善委員会

議 事 録

日 時： 2026 年 9 月 25 日 (金) 16 : 00～16 : 30※四短同時実施
場 所： 大会議室
構 成： 金 永 秀 (学長)*委員長 許 伯 基 (宗教部長代行)
上 原 明 子 (教学支援部長) 新 垣 友 子 (学生支援部長)
新 垣 誠 (図書館長) 平 中 尚 子 (地域こども保育学科長)
與那原 馨 (事務局長) 真栄田 美 奈 (企画推進課長)
陪 席： 内 間 貴 士 (企画推進課書記)
委 任： 新 垣 誠 (図書館長)

【審議事項】

■ 1 : 外部評価実施報告

別紙①「2026 年度 沖縄キリスト教学院 外部評価委員会 議事録」

◆2026 年 8 月 31 日に「2026 年度外部評価委員会」が開催された。当該委員会では、「第 6 次中期計画及びアクションプラン」に基づき、取組計画内容について、外部評価委員及び学内出席者による意見交換が行われた。

今回の外部評価委員会の内容については、企画推進課長より別紙①「外部評価委員会議事録」に基づき報告があり、その内容及び公表について審議した結果、「問題なし」として全会一致で承認された。

なお、後日、当該議事録の内容(概略)を包括した「外部評価報告書(2026)」を作成し、本学公式ウェブサイトにて公表する予定である。また、外部評価委員(学外)からの提言及び意見については、教学マネジメント委員会や大学運営協議会、学内担当部署において内容を共有し、点検評価・改善向上、及び単年度の事業計画に反映させるよう確認された。

<外部評価委員の意見・質問等の一部抜粋報告>

外部評価委員からの提言及び意見については、今後の点検評価・改善・向上に反映していくこととする。

(外部評価委員からの意見・質問等)

- ・ 修学ポートフォリオの活用及びアクションプラン上の KPI 設定に係る意見・質問等
- ・ 学修成果の可視化・向上に係る意見・質問等
- ・ 教育の質保証・質向上に係る意見・質問等
- ・ 入学者選抜の適正化に係る意見・質問等
- ・ オフィスアワー制度に係る意見・質問等
- ・ DX 推進に係る意見・質問等
- ・ 中途退学防止対策に係る意見・質問等
- ・ 入学定員の充足に係る意見・質問等
- ・ KPI 設定の妥当性及び本学の強みの発信に係る意見・質問等

(詳細は別紙①参照)